

米中ビジネス評議会調査レポート(ポイント)①(6月実施、117社回答)

(2022年9月作成)

1 米国企業が抱える問題:

1位:コロナ規制(ロックダウン)、2位:米中関係、3位:コロナ規制(渡航制限)

その他、データ安全関係規則、中国企業との競争、国内企業優遇政策等がトップ10入り

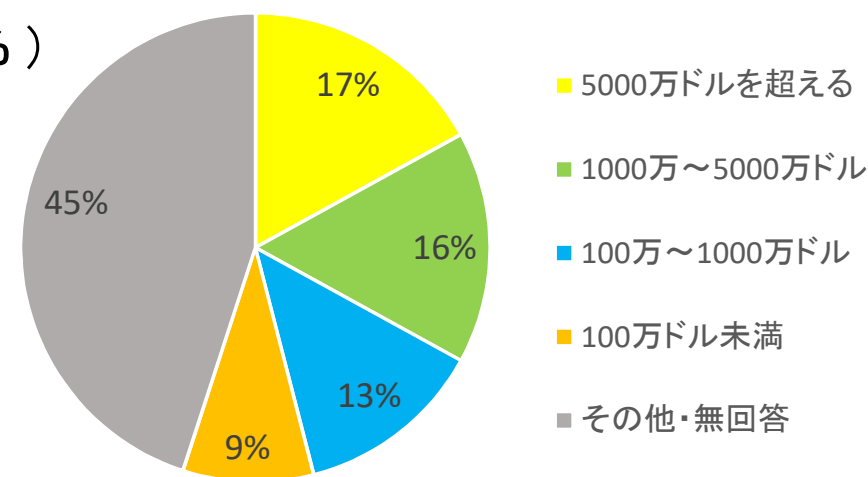
2 コロナ関連:

● 53%がコロナ規制により今後の投資計画等に影響を受けたと回答

● 中止/延期した投資額: 33%が1000万ドル以上

● 24%が過去12ヶ月以内にサプライチェーンの一部を
中国国外に移転(米国への移転8%、第三国への移転16%)

(・他方、86%がコロナ規制が撤廃されれば、中国市場に
対する信頼が回復すると回答)



3 米中関係:

● 過去最高の87%が米中関係がビジネスに影響を
与えていると回答

・ 具体的な影響: ①売上損失(45%)、②仕入・調達先変更(37%)、③投資の延期・中止(36%)

米中ビジネス評議会調査レポート(ポイント)②(6月実施、117社回答)

4 中国の産業政策:

(2022年9月作成)

- 37%が企業活動にマイナスの影響を受けたと回答
 - ・ 具体的な影響: ①中国企業との競争激化(77%)、②重要市場・分野へのアクセス制限(63%)、国産志向(53%)
- 51%が過去12ヶ月に中国政府及び国有企業による調達に関する市場環境が悪化したと回答

5 今後の見通し:

- 89%が中国での活動は企業に利益をもたらすと回答(過去7年で最低も、高水準を維持)
- 今後5年間のビジネス見通し: 楽観的・やや楽観的51%(過去最低)、悲観的・やや悲観的21%(過去最高)
 - ・ 見通しに影響を与える要因: ①地政学的要因(73%)、②中国の政策・規制(66%)
- 企業の戦略形成における中国の重要度: 最重要6%、上位5位以内71%
 - ・ 中国への投資目的: 83%が中国市場に対応するためと回答

中国欧州商会ポジションペーパー(ポイント)①(9月21日公表)

1 中国は、イデオロギーが経済に優先している状態であり、投資先としての魅力が減少。(2022年9月作成)

2 欧州企業の中国ビジネス上の考慮

- 現在は、弾力的なサプライチェーン構築、ビジネス上の問題、風評被害のリスク管理、コンプライアンスを重視。

3 中国が直面する問題

- 国内的側面: 経済成長を犠牲にした厳格なコロナ政策(経済に優先するイデオロギー)
 - ・外国人の流出: 中国国内外への極端な渡航制限により、外国人流出に拍車。
 - ・中国事業の孤立化: 欧州本社との交流が制限され、中国事業の孤立化が進行。また、本社の意思決定者が中国での経験を積むことが出来ず、中国への理解や関心が低下。
 - 国際的側面:
 - ・主に米国との貿易戦争に起因する地政学的緊張の高まり
 - ・中国に対して人権侵害への疑いへの対処を求める声が世界各国から出ていること
- 欧州企業は、自国での風評被害を避けるため、事業の透明性を示すことが求められている。

中国欧州商会ポジションペーパー(ポイント)②(9月21日公表)

(2022年9月作成)

4 欧州企業の対応

- 多くの企業が、中国での活動を縮小又は現地化することを余儀なくされている。
- 対中投資の減少、他の市場へのシフト

欧州企業が中国市場を重視しなくなった訳ではないが、中国への関与はもはや当然のものではない。

- ・ EUから中国への**投資の減少傾向**(対中直接投資全体に占めるEUの割合:1999年11.1%→2020年3.8%)。投資の大部分はごく少数の大企業によるものであり、**新規参入者が減少**。
- ・ 2022年4月商会調査によれば、回答者の23%が計画中又は将来の投資を中国から他の市場へシフトすることを検討しており、過去10年で最高値。
- サプライチェーン戦略の変化
 - ・ 2022年初頭のロックダウン後、リショアリング、ニアショアリング、フレンドショアリングなど、**サプライチェーンの弾力化を検討する企業が増加**。この傾向は、今後も続くと予想される。

5 台湾

- 半導体の主要生産者である台湾は、サプライチェーンにおける重要性が非常に高い。
- EUは台湾への投資の機会を増やし、強力な貿易・投資関係を維持しようとしている。台湾をめぐる中国と欧州の緊張も、欧州企業の中国でのビジネスを複雑にしている。